

# 直接一間接学習による幼児の行動の 相違に関する研究 (2)

— 幼児期における文化的環境と性差 —

研究第5部 網野武博・石川英夫  
望月武子・萩原英敏  
丸尾あき子

## I 目的

これまで幼児期における学習、とくに間接学習の影響が、その後の行動の変容に、どう関連づけられていくかを検討してきた。

前回の報告では、幼児期における攻撃行動の学習における性差、並びに直接一間接学習におけるオペラント水準の重要性などを見出してきた。

今回は、間接学習の媒体として文化的環境、とくに図書及びTV番組をとりあげ、これを通してみられる養育者の意識、態度及び幼児の学習効果、行動傾向について検討することとした。とくに幼児期の男の子らしさ、女の子らしさ等発達過程における性意識に焦点をあてている。

## II 方法

1. 読書傾向及びTV番組視聴傾向に関する調査
2. 多く読まれている図書及び多く視られているTV番組の内容分析

今回の報告は、このうち上記1について行った「お子さまの読書に関するアンケート」の結果について、とくに性別、地域別の特徴を中心にまとめた。

「お子さまの読書に関するアンケート」

- 1) 調査内容：別紙参照
- 2) 調査時期：昭和54年8月～昭和55年1月
- 3) 調査対象：下記の3地域10幼稚園の4歳、5歳児の保護者1,274名であるが最終的な回答者数は923名(回収率72.4%)であった。

## III 結果とその考察

### 1. 現在とくに興味をもっている遊び

対象となった幼児の遊びの種類を多い順にみると第I-1表のとおりである。

地域	幼稚園名	調査対象数	返送数			回収率(%)
			男児の保護者	女児の保護者	計	
A 大都市圏 (東京都内)	私立a幼稚園	110	48	46	94	85.5
	私立b幼稚園	65	26	31	57	87.7
	私立c幼稚園	75	20	21	41	54.7
	私立d幼稚園	220	92	71	163	74.1
	計	470	186	169	355	75.5
B 中都市圏 (長野市)	私立e幼稚園	250	54	43	97	81.6
	私立f幼稚園		36	33	69	
	私立g幼稚園		17	21	38	
	計	250	107	97	204	
C 小都市圏 (宇土市・十和田市・七戸市)	公立h幼稚園	250	85	84	169	67.6
	私立i幼稚園	120	38	44	82	68.3
	公立j幼稚園	184	55	58	113	61.4
	計	554	178	186	364	65.7
総計		1,274	471	452	923	72.4

男児では活動性の高いもの、屋外で遊ぶものが比較的多く、女児ではママゴト、ごっこ遊びのような比較的静的なもの、屋内で遊ぶものの割合が高いが、一方自転車、縄とび、鉄棒なども上位を占めている。

これを地域別にみると第I-2表のとおりであり、上位を占める遊びで比較すると、男女ともに小都市農山村圏(C地域、以下同じ)で屋内遊びが多く、中都市圏(B地域、以下同じ)で屋外遊びの割合が多くみられ、男児においてその差は有意(5%水準)であった。

なお、遊びの中に占める「本」の割合は男女ともに3.2%と一致した結果になっていることは興味深い。「テレビ」は男女ともに1%前後と低い割合である。

### 2. 遊び時間と読書時間

対象となった幼児の一日の遊び時間及び読書時間は第

第I-1表 興味を持っているあそびの種類

男児

の好きなあそびの種類

順位	あそびの種類	頻数	(%)
1	自転車	156	11.7
2	ブロック	146	11.0
3	ウルトラマン・怪獣ごっこ	60	4.5
4	野球・キャッチボール	55	4.1
5	お絵かき	54	4.1
6	砂遊び	43	3.2
7	本	42	3.2
8	ゲーム	38	2.9
9	工作	34	2.6
10	プラモデル	33	2.5
11	ミニカー	29	2.2
12	積み木	28	2.1
13	消しゴムあそび	27	2.0
14	折り紙	22	1.7
15	粘土	21	1.6
16	絵の具	21	1.6
17	ドレーン	19	1.4
18	鉄棒	17	1.3
19	戸外で遊ぶ	17	1.3
20	おままごと	16	1.2
21	おままごと	16	1.2
22	虫取り	15	1.1
23	泥遊び	15	1.1
24	レゴ	15	1.1
25	縄跳び	13	1.0
26	テニス	13	1.0
27	おもちゃあそび	13	1.0
28	ひらがな・数の練習	13	1.0
29	ぬり絵	12	0.9
30	紙切り	11	0.8
31	友達とあそぶ	10	0.8
32	プラモデル	10	0.8
33	その他	298	22.4
合計		1332*	100.4

順位	あそびの種類	頻数	%
1	ママゴト・お母さんごっこ	220	17.3
2	お絵かき	118	9.3
3	自転車	100	7.8
4	縄とび	72	5.7
5	折り紙	70	5.5
6	人形遊び・着せかえ	61	4.8
7	鉄棒	55	4.3
8	ぬり絵	49	3.8
9	本	41	3.2
10	砂と水遊び	26	2.0
11	トランプ	20	1.6
12	パズル	18	1.4
13	工作	17	1.3
14	ゴムだん	17	1.3
15	ブロック	16	1.3
16	ドレーン	16	1.3
17	幼稚園ごっこ	15	1.2
18	粘土	13	1.0
19	ボール投げ	12	0.9
20	テレレ	11	0.9
21	あやとり	11	0.9
22	ゲーム	10	0.8
23	その他	286	22.4
合計		1,274*	100.0

表 式 H

\* 無回答のものを除く、以下の表もとくに記しているもの以外同様である。

第I-2表 地域別

男児

女児

全体 順位	あそびの種類	合計	地 域 ※													
			A		B		C									
			順位	%	順位	%	順位	%								
1	自転車	156	②	8.4	①	18.3	②	11.3	ママゴト・ごっこ遊び	220	①	17.6	①	18.4	①	16.3
2	ブロック	146	③	8.6	③	7.6	①	15.5	お絵かき	118	②	8.1	④	6.5	②	11.8
3	ウルトラマン・怪獣ごっこ	60	⑧	6.0	⑥	2.7	④	4.0	自転車	100	⑥	5.0	②	14.1	③	7.2
4	野球・キャッチボール	55	⑦	3.4	②	10.0	⑩	1.4	縄とび	72	⑦	3.7	③	6.9	④	7.0
5	お絵かき	54	⑥	3.6	⑦	2.0	③	5.8	折り紙	70	⑤	5.2	⑥	4.3	⑤	6.4
6	砂遊び	43	⑨	2.8	④	4.0	⑥	3.2	人形遊び	61	⑧	6.8	⑨	2.5	⑥	4.1
7	本	42	⑧	3.0	⑤	3.0	⑥	3.4	鉄棒	55	④	5.8	④	6.5	⑧	1.7

※ A…大都市圏, B…中都市圏, C…小都市農山村圏

第Ⅱ-1表 遊び時間および読書時間

	遊び時間(時間)	読書時間(分)
平均	4.3	36.0
範囲	1.0~8.0	0.0~300.0
標準偏差	1.27	25.4

女児

	遊び時間(時間)	読書時間(分)
平均	4.3	38.1
範囲	2.0~10.0	0.0~180.0
標準偏差	1.33	26.2

第Ⅱ-2表 地域別にみた遊び時間、読書時間

地域	遊び時間(時間)			読書時間(分)		
	A	B	C	A	B	C
平均	4.7	3.9	4.2	39.2	29.5	37.9
範囲	1.0~8.0	2.0~7.0	1.0~7.0	0.0~300.0	0.0~90.0	10.0~120.0

女児

地域	遊び時間(時間)			読書時間(分)		
	A	B	C	A	B	C
平均	4.7	3.9	4.2	40.0	38.6	37.6
範囲	2.0~8.0	2.0~7.0	2.0~10.0	5.0~120.0	0.0~120.0	0.0~180.0

遊び時間

	A	B	C
A	/	**	
B		/	
C			/
全体		**	**

読書時間

	A	B	C
A	/		
B		/	**
C			/
全体		**	**

遊び時間

	A	B	C
A	/	**	**
B		/	**
C			/
全体		**	**

第Ⅱ-3表 遊び時間に対する読書時間の比率

性	男児	女児
平均	14.5%	15.6%
標準偏差	10.03	10.50

地域別

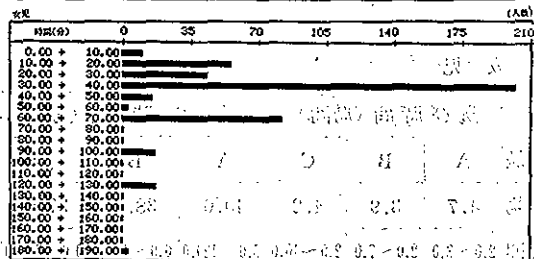
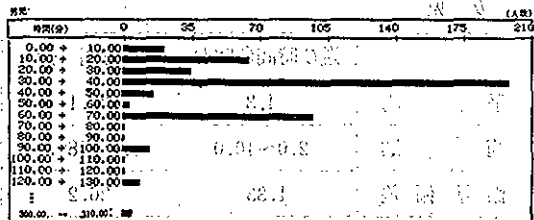
性	男児			女児		
	A	B	C	A	B	C
平均	13.90%	13.18%	16.38%	15.27%	16.83%	15.49%
範囲	0.00~0.71	0.00~0.50	0.00~0.50	0.01~0.50	0.00~0.67	0.00~0.75

Ⅱ-1表のとおりである。遊び時間の平均は男女ともに4.3時間であり、このうち読書時間は、男児平均36.0分、女児平均38.1分と女児がわずかに長い有意な差ではなかった。また読書時間の分布も第Ⅰ図のとおり男女ともにきわめて似通っている。

これを地域別でみると、第Ⅱ-2表のとおり遊び時間の平均は各地域とも男女全く同じであるが、この遊び時間及び男児の読書時間は、大都市圏(A地域、以下同じ)；

小都市農山村圏、大都市圏の順で長くこれらには有意な差がみられた。すなわち平均して男女ともに大都市圏の方が大都市圏よりも長く遊んでおり、また男児では、大都市圏の子どもの読書時間が短いということである。これをさらに遊び時間に対する読書時間の割合をみることによって実態がより理解される。第Ⅱ-2表及び第Ⅱ-3表から、大都市圏では読書時間を含めてよく遊んでいること、大都市圏では他の地域より平均して少ない遊

第I図 読書時間の分布



び時間の中で、読書の割合は男児が低く、女児が高いこと、さらに小都市農山村圏では、全体の平均に近い遊び時間の中で読書の割合が高いことが示されている。この結果は上記の地域別にみた屋内遊び、屋外遊びの特徴と符合している。

3. 現在もっている本の数

対象となった幼児は第Ⅲ-1表のとおり男女ともに平

第Ⅲ-1表 持っている本の数

性	男 児	女 児
平均	52.9冊	53.0冊
標準偏差	44.9	53.8
範 囲	0.0~300.0	0.0~500.0

第Ⅲ-2表 地域別

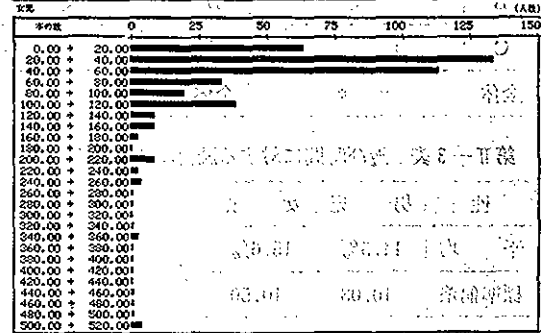
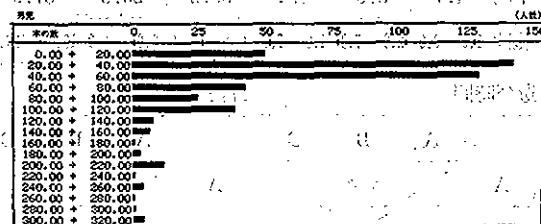
性	男 児			女 児		
	A	B	C	A	B	C
平均	62.5冊	62.8冊	45.6冊	61.1冊	73.3冊	42.7冊
範 囲	3.0~300.0	10.0~300.0	0.0~300.0	0.0~300.0	0.0~500.0	0.0~250.0

均して53冊の本を持っている。男児では300冊を超える子どもが3名、女児では500冊を超える子どもが2名みられた。

地域別でみると第Ⅲ-2表のとおり、読書時間の割合の高かった小都市農山村圏が男女ともに平均して少ない。とくに女児では多く持っている中都市圏及び大都市圏と最も少ない小都市農山村圏の間には有意な差(2.5%水準)がみられた。

ところで子どもが持っている本の数は、その子どもが、長子であるか否かによって異なることが予想される。出生順位と持っている本の数との関係をみたところ第Ⅲ-3表のとおりであり、男児の場合には一人っ子が、女児

第II図 持っている本の数の分布



女 児

	A	B	C
A			*
B			**
C			
全体	*	*	

第三一三表 出生順位と持っている本の数との関係

男児

	一人っ子	第一子	次子以降	計
0～49冊	11人	72人	115人	198人
50～99	20	61	68	149
100～149	4	15	23	42
150～199	1	2	3	6
200～249	2	4	4	10
250以上	1	3	1	5
計	39	157	214	410

	一人っ子	第一子	次子以降
一人っ子	—		*
第一子		—	
次子以降			—
全体			

\*...5%水準、  
以下同じ

の場合には一人っ子、第一子ともに次子以降よりも本を多く持っている傾向がみられ、これには有意な差がみられた。次子以降では、すでに上の子に与えられている本を読む機会が多くなること、親の子どもに対する物の与え方に経験上の変化が生ずることなどが理由として考えられる。

第四一表 1か月に平均して与えている本の数

	雑誌		単行本	
	男児	女児	男児	女児
全体	平均 1.14冊	1.07冊	平均 1.42冊	1.51冊
	範囲 0.0～5.0	0.0～6.0	範囲 0.0～10.0	0.0～20.0
本を与えられた児のみ	平均 1.49冊	1.48冊	平均 2.28冊	2.33冊

第四二表 地域別 (本を与えられていない児も含む)

雑誌

性別	男児			女児		
地域	A	B	C	A	B	C
平均	1.26冊	1.09	1.02	1.12	1.01	1.03

単行本

性別	男児			女児		
地域	A	B	C	A	B	C
平均	1.62冊	1.66	1.25	1.97	1.45	1.34

女児

	一人っ子	第一子	次子以降	計
0～49冊	10人	74人	120人	204人
50～99	17	62	44	123
100～149	8	18	15	41
150～199	1	4	2	7
200～249	2	2	5	9
250以上	1	2	2	5
計	39	162	188	389

	一人っ子	第一子	次子以降
一人っ子	—		***
第一子		—	**
次子以降			—
全体			

\*\*\*...1%水準、  
以下同じ

4 1か月間に与えられる本の数

対象となった幼児が1か月間に与えられる本の数は第四一表のとおり雑誌が1冊強、単行本が1.5冊前後である。単行本については与えられる数の分布は広範囲にわたっている。しかし調査時点では、1か月間に1冊も本を与えられなかった子どもは雑誌では男児が約23%

第V-1表 1週間以上興味を持ちつづけた本の数  
雑誌

	人数	平均	割合 (%)			
			1冊未満	1冊以上 2冊未満	2冊以上 3冊未満	3冊以上
男児	465人	0.98冊	51.61	25.16	12.90	10.33
女児	450人	0.80冊	56.66	28.44	6.66	8.23

性差\*\*

単行本

	人数	平均	割合 (%)			
			1冊未満	1冊以上 2冊未満	2冊以上 3冊未満	3冊以上
男児	465人	1.38冊	53.01	13.36	15.08	18.54
女児	464人	1.49冊	48.27	16.81	16.37	18.54

女児が28%、単行本では男児が約37%、女児が約35%にのぼった。そこで、本を与えられた子どものみについて与えられた本の数をみたところ、雑誌が約1.5冊、単行本が2.3冊前後であった。したがって親によって与えられる本の数がかなり相違し、与えられる子と与えられない子の差は、とくに単行本については比較的広がっていることが考えられる。

先きの回答から、持っている本の数には地域的な差がみられたが、調査時点では1か月間に与えられる本の数(1冊も与えられなかった子どもを含む)の平均をみると第IV-2表のとおりであり、本を最も多く持っている中都市圏の子どもは、雑誌よりも単行本を多く与えられているが、全体的に雑誌よりも単行本の与え方に地域的な相違がみられることがわかる。

5 興味が続く本の数及び日数

1週間以上興味を持ち続けた本の数は、第V-1表のとおりで、雑誌では男児が平均0.98冊、女児が平均0.80冊であり、比較的女児よりも男児の方が本の数が多い傾向がみられ、これには有意な差(2.5%水準)がみられた。

一方単行本では逆に男児が平均1.38冊で女児の1.49冊より少ない傾向が見られたが、有意の差ではなかった。

それでは一冊の本に子どもは何日程度興味が続くのであろうか、第VI-1表のとおり平均して興味の続く日数は男女ともに5日以内が最も多く、10日を越えるものは男児では約21%、女児では約17%である。これがとくに興味のある本の場合では1か月以上続くものが男児では約46%、女児では約41%もみられる。この場合もいずれも男児が女児よりやや長い有意差はみられなかった。

なお、地域的にみると、とくに興味のある本の場合には第VI-2表のとおり、持っている本の数の少ない小都市農山村圏の子どもが興味の続く日数が長く、男児では他のすべての地域よりも、また女児の場合でも大都市圏よりも有意に(1%水準)長かった。持っている本の数の多さと本への興味が続く長さとは必ずしも関係が強くはないことが予想される。

一方、読書時間がカリキュラムの中に含まれている幼稚園と、含まれていない幼稚園でみると、第VI-3表のとおり、女児の場合カリキュラムに含まれている幼稚園

第VI-1表 1冊の本に興味がつづく日数  
平均して

	1日以内	5日以内	6~10日	11~20日	21~30日	1か月以上
男児	45人	212人	103人	36人	13人	47人
女児	138人	204人	121人	25人	18人	30人

特に興味のある場合

	1日以内	5日以内	6~10日	11~20日	21~30日	1か月以上
男児	11人	59人	80人	56人	28人	195人
女児	11人	77人	92人	34人	28人	171人

第VI-2表 地域別 (特に興味のある場合)

男児

	A	B	C
1日以内	1人	5人	5人
5日以内	17	24	18
6~10日	28	11	41
11~20日	16	11	29
21~30日	11	4	13
1か月以上	98	46	51

女児

	A	B	C
1日以内	4人	1人	6人
5日以内	19	20	38
6~10日	24	21	47
11~20日	14	9	11
21~30日	9	6	13
1か月以上	84	34	53

	A	B	C
A		***	***
B			***
C			
全体	***		

	A	B	C
A			***
B			
C			
全体	***		

第VI-3表 幼稚園別 (特に興味のある場合)

男児

	1日以内	5日以内	6~10日	11~20日	21~30日	1か月以上
読書時間がカリキュラムにはいつている園	5人	27人	35人	20人	7人	90人
読書時間がカリキュラムにはいつていない園	3人	24人	44人	32人	19人	90人

女児

	1日以内	5日以内	6~10日	11~20日	21~30日	1か月以上
読書時間がカリキュラムにはいつている園	4人	35人	37人	17人	11人	62人
読書時間がカリキュラムにはいつていない園	7人	37人	114人	15人	15人	96人

園別... \*\*

の方が興味が長く続くことが示されている。

これらの結果をみると、子どもがかなり長い期間にわたってしばしば開いている本の内容についてさらに検討することが、読書環境とともにその間接学習の効果を研究する上で重要であることをあらためて考えさせる。

6 本の与え方

つぎに、今回対象となった幼児が、どのように本を与えられているかをみると第Ⅲ図のとおり、「子どもの要求によって与える」場合が最も多い。次いで男児では「園を通して購入」、「親が積極的に購入」、女児では逆に「親が積極的に購入」、「園を通して購入」の順となっているが、この順位の違いは有意ではない。4.5歳の年齢では、すでに子どもの要求によって本が与えられることが一番多いことが示されている。しかも第VII-1表のとおり男児、女児ともに重みづけ得点では、次いで「親」よりも「幼稚園」の方が高いウェイトを占めている。この点をさらに検討するため、幼稚園が読書にどのようにかがわ

っているかの相違によって、この傾向を分析してみた。

第VII-2表のとおり、男児の場合読書時間がカリキュラムに含まれている幼稚園の方が、「園を通して購入」する割合が高く、カリキュラムに含まれていない幼稚園では、その他の与え方の割合が高いことがわかった。すなわち、男児は「幼稚園」が2位を占めているのは、幼稚園の教育動向とも関連していることが示唆された。

このような本の与え方と、読書時間とは関連性があることが予想される。すなわち「子どもの要求によって与える」場合には、読書時間も他の与え方の場合よりも長いのではないかとということである。第VII-3表のとおり、男女児ともに「子どもの要求」による場合(読書時間男児平均38.8分、女児平均41.8分)が、「園を通して購入」による場合(同じく男児平均31.4分、女児平均30.5分)よりも有意に長かった。さらに女児では「親が積極的に」による場合(平均41.26分)よりも有意に長い。確かに幼稚園において読書時間が組み込まれている場合

第Ⅲ図 本の与え方

男 児				
1位	親が積極的に与える 22.2%	子どもの要求によって与える 42.8%	園を通して購入 29.7%	その他 5.3%
2位	親 27.6%	子ども 34.0%	園 34.5%	その他 3.9%
3位	親 40.8%	子ども 22.2%	園 26.4%	その他 10.6%
4位	親 8.3%	子ども 3.5%	園 7.8%	その他 80.4%
女 児				
1位	親が積極的に与える 25.1%	子どもの要求によって与える 42.7%	園を通して購入 28.6%	その他 3.6%
2位	親 32.8%	子ども 35.0%	園 29.3%	その他 2.9%
3位	親 34.1%	子ども 23.7%	園 32.8%	その他 9.4%
4位	親 7.0%	子ども 1.8%	園 6.8%	その他 84.4%

第Ⅶ-1表 重みづけ得点

	親が積極的に与える	子どもの要求	園を通して購入	その他
男 児	1,115点	1,397点	1,216点	541点
女 児	1,120点	1,356点	1,127点	491点

第Ⅶ-2表 幼稚園別（無回答の1園を除く）

男 児				
	親が積極的に与える	子どもの要求	園を通して購入	その他
読書時間がカリキュラムにはいつている園	471点	588点	532点	221点
読書時間がカリキュラムにはいつていない園	448点	699点	431点	586点
女 児				
	親が積極的に与える	子どもの要求	園を通して購入	その他
読書時間がカリキュラムにはいつている園	428点	533点	493点	205点
読書時間がカリキュラムにはいつていない園	473点	604点	536点	249点

は、帰園後の読書時間が短くなることが考えられるが、子ども自身が要求して本を読もうとする読書意欲は、持っている本の数よりも読書時間との関連性の高いことが確かめられた。その子どもの読書意欲は環境によって

どの程度影響されるのかは今後検討する必要がある。7. 本を選ぶ手がかり、つぎに、何を手がかりとして本を選ぶかをみたところ、第Ⅳ図のとおり、男女ともに「親の判断」が最も多く、



第七一三表 本の与え方と読書時間との関係

男児

1位にあげたもの	時間	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上
親が積極的に与える		20人	44人	29人	3人
子どもの要求		44人	81人	45人	13人
園を通して購入		41人	49人	15人	2人

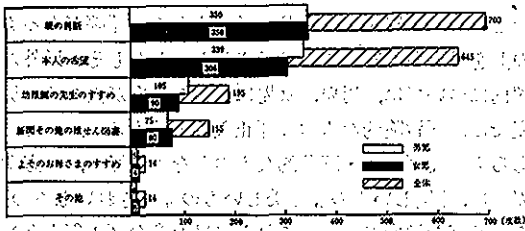
	親	子ども	園
親	/		***
子ども		/	***
園			/
全体			***

女児

1位にあげたもの	時間	30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 90分未満	90分以上
親が積極的に与える		13人	59人	31人	4人
子どもの要求		42人	79人	38人	20人
園を通して購入		41人	65人	8人	6人

	親	子ども	園
親	/		***
子ども		/	***
園			/
全体			***

第四図 本を選ぶ手がかり



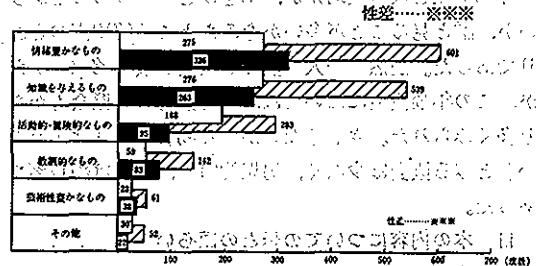
次いで「本人の希望」、「幼稚園の先生のすすめ」の順となっている。上記の回答とあわせて考えると、子どもの要求のとおり親が選んで与えることが多いが、子どもの希望や要求、あるいは幼稚園がすすめる場合でも与える際には親としての判断が加えられていると考えられる。しかし、この年齢段階においては、予想以上に子どもの要求が重視されているように思われる。

なお、幼稚園において読書時間がカリキュラムに含まれているか否かによる相違をみたが、有意な差はなかった。

8 選ぶ時に重きをおく本の種類

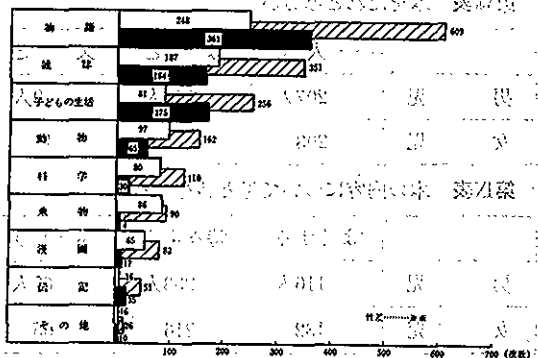
こうして選ばれた本は、どのような種類のものに重きをおかれているかをみるところ、第V図のとおりであった。「情緒豊かなもの」が最も多く、次いで「知識を与えるもの」、やや離れて「活動的・冒険的なもの」、「教訓的なもの」の順となっている。全体的には、情操教育・知的教育に重きをおいており、とくに男女ともに「知識を与えるもの」のウェイトの高さが特徴的である。しかし、その一方明らかに性差のみられるものがあり、とく

第五図 選ぶ時重きをおく本の種類



に女児における「情緒豊かなもの」、「教訓的なもの」及び男児における「活動的・冒険的なもの」のウェイトの高さも特徴的であり、これには有意な(1%水準)差がみられた。これが、親としての育児意識をより反映しているのか、あるいは現実の子どもの意識や生物学的傾向をより反映したものかは検討を要する。この性差について

第六図 本の内容



ては、以下の問いのいくつかと関連させてみていくこととする。

9 本の内容

具体的な本の内容についてみると、第VI図のとおり、「物語」が圧倒的多数を占め、しかも女兒にとくに多い。この時期における「物語」に対する興味と内容的吸収の影響度をあらためて思わせるものがある。その他では、女兒は「子どもの生活」、男児では「動物」、「乗物」、「科学」が比較的多く、女兒の物語を含む生活的内容と男児の活動的内容の選択には有意な(2.5%水準)差がみられた。

なお、「雑誌」が男児で2位、女兒で3位を占めているが、内容的にはバラエティに富んでおり、読む本の内容としては不可欠のものとなっていることがわかる。

また、上記の本の種類とこの本の内容との関係をみたが、上記の種類のは、さまざまな内容と重複しており、特別の関連性はみられなかった。

10 本を誰とみるか

今回対象となった幼児が、本をひとりで見ることが多いか、誰と見ることが多いかをみたところ第VII表のとおりであった。当然「一人で」みる機会が多かったが、この年齢段階においては、「母」とみる機会もかなり多くみられた。きょうだいがいる場合でも「きょうだい」とみる機会は少なく、男児約21%、女兒は約17%であった。

11 本の内容についての母との語り

本の内容について、子どもが母と話しをするかどうかをみたところ、第IX表のとおり、「時々する」が約49%と半数を占め、次ぎに多い「よくする」を加えると全体の75%を占めた。上記の結果とあわせて考えると、この時期における本を媒介とする母子間の交流は、かなり通例のものであるといえよう。

12 本を与えることによって学んでほしいこと、教えたこと

母親が、子どもに本を与えることによって何を学んでほしいか、また教えたかを見たところ、自由記述に示された内容をまとめると第X-1表及び第X-2表のとおりであった。男児に対しても、女兒に対しても「情緒が豊かになる」、「情緒を豊かにしたい」が最も多い。学んでほしいこと、教えたことの内容は、順位に若干のちがいがみられるにしても、情緒面、知識面、生活面、道徳・教訓的な面を重視していることがわかる。教えたこと、女兒の親は情緒面を、男児の親は道徳面をより重視しているように思われたが有意な差ではなかった。

地域別にみると、第X-3表及び第X-4表のとおり、情緒面、生活面よりも、知識面、道徳面をより学ばせたい、教えたい傾向が小都市農村山圀において強くみられ、大都市圀よりもとくにこの傾向が強くみられた。この有意差は生活・文化的背景の相違が本を与える親の意識に反映していることを示している。

13 子どもが好む本の傾向

対象となった幼児がどのような傾向の本を好むかをみたところ、第VIII図のとおり、子どもたちは「夢があるもの」を最も多く好むことが示された。しかしそれ以外の傾向については、男児、女兒によって傾向が異なる。男児では、「冒険的なもの」、「正義のあるもの」、「勇気のあるもの」、「闘い・闘争的なもの」をより好み、一方女兒では、「優しいもの」、「美しいもの」、「きれいなもの」をより好む傾向がある。これらには有意な(1%水準)差がみられた。

以上の傾向は一般に予想されている男の子らしさ、女の子らしさとほぼ一致するものであるが、これが読書環境とどの程度関連しているであろうか。これを上記8「選ぶ時に重きをおく本の種類」との関係でみた。第XI表のとおりとくに親が重きをおいている割合の最も高い「情緒豊かなもの」についてみると、男女ともに「優しい」、「美しい」、「夢があるなど」の傾向の本との関連性

第VII表 本をだれとみるか

	一人で	母と	父と	きょうだいと	祖母父と	友達と	その他
男 児	207人	161人	9人	78人	8人	4人	1人
女 児	203	149	11	61	10	6	5

第IX表 本の内容について母と話をするか

	よくする	時々する	ふつう	あまりしない	全然しない
男 児	116人	233人	67人	41人	9人
女 児	132	216	65	32	4

第X-1表 本を与えることによって学んでほしいこと

順位	分類項目	男 児		女 児		計	
		頻数	%	頻数	%	頻数	%
1	情緒が豊かになる	102	21.0	106	22.0	208	21.5
2	知識を豊かにする・正確な理解力が身につく	82	16.9	85	17.7	167	17.2
3	生活の拡大	50	10.3	55	11.4	105	10.9
4	道徳・倫理・善悪の判断などを身につけさせる	54	11.1	43	8.9	97	10.0
5	想像力が豊かになる	41	8.4	35	7.3	76	7.9
6	文字に親しみをもたせる	32	6.6	28	5.8	60	6.2
7	社会性・常識などを身につけさせる	21	4.3	28	5.8	49	5.1
8	本を読む事の価値を認める・読む楽しさを与える	25	5.1	22	4.5	47	4.9
9	本によって何かを考える習慣をつけさせる	27	5.6	18	3.7	45	4.7
10	性格がよくなる事を期待する	14	2.9	16	3.3	30	3.1
11	読む習慣を身につける	11	2.3	15	3.1	26	2.7
12	表現力が豊かになる	9	1.9	12	2.5	21	2.2
13	自主性を育てる	8	1.7	8	1.7	16	1.7
14	その他	6	1.3	5	1.0	11	1.1
15	特別なし	4	0.8	5	1.0	9	0.9
	計	486	100.2	481	99.7	967	100.1

第X-2表 本を通じて教えたいたい事

順位	分類項目	男 児		女 児		計	
		頻数	%	頻数	%	頻数	%
1	情緒を豊かにしたい	72	17.6	84	21.6	156	19.5
2	道徳・倫理・善悪の判断などを身につけさせる	79	19.3	62	16.0	141	17.7
3	生活の拡大	46	11.2	38	9.8	84	10.5
4	知識を豊かにする・正確な理解力を身につけさせる	42	10.2	39	10.1	81	10.2
5	社会性・常識などを身につけさせる	38	9.2	41	10.6	79	9.9
6	文字に親しみをもたせる	25	6.1	19	4.9	44	5.5
7	本を読む事の価値を認める・読む楽しさを与える	23	5.6	13	3.3	36	4.5
8	本によって何かを考える習慣をつけさせる	14	3.4	22	5.7	36	4.5
9	想像力が豊かになる	16	3.9	15	3.8	31	3.9
10	読む習慣を身につける	11	2.7	11	2.8	22	2.8
11	性格がよくなる事を期待する	11	2.7	10	2.6	21	2.6
12	表現力が豊かになる	10	2.4	10	2.6	20	2.5
13	自主性を育てる	8	2.0	11	2.8	19	2.4
14	特別なし	7	1.7	9	2.3	16	2.0
15	その他	8	2.0	4	1.0	12	1.5
	計	410	100.0	388	99.9	798	100.0

はうすく、また「知識を与えるもの」についてみると、「知的興味をそそる」傾向の本との関連性がやや高いように思われたが、有意ではなかった。しかし、男児をもつ親に重きをおく割合の高かった「活動的・冒険的なもの」についてみると、その男児は「面白い・闘争的なもの」、「冒険的なもの」を好む傾向が有意に高く、(1%水

準)、また女児をもつ親でも「活動的・冒険的なもの」に重きをおく親の場合、その女児にも同じ傾向が有意にみられた。包括的、かつ広い範囲にわたる「知識」と異なり、内容として具体的な特徴がみられる「面白い」、「活動」、「冒険」などの内容は、男女ともに親が読ませたい、あるいは重きをおくといふ読書環境が子どもの傾

第X-3表 学んでほしいこと 地域別

	A	B	C
情緒が豊かになる	88	60	60
知識を豊かにする、正確な理解力が身につく	68	38	61
生活の拡大	53	25	27
道徳・倫理・善悪の判断などを身につけさせる	32	17	48
想像力が豊かになる	36	18	22
その他	135	78	101
計	412	236	319

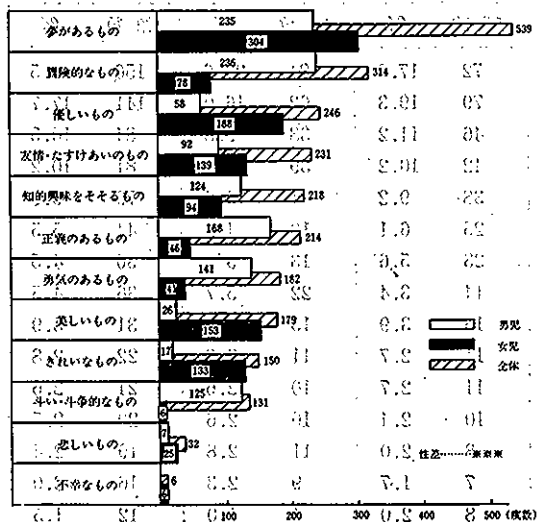
	A	B	C
A	/		**
B		/	**
C			/
全体		*	

第X-4表 教えたいこと 地域別

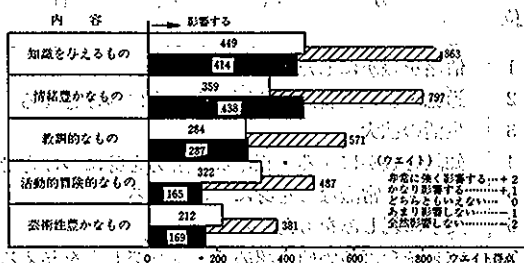
	A	B	C
情緒を豊かにしたい	65	37	54
道徳・倫理・善悪の判断などを身につけさせる	40	39	62
生活の拡大	47	20	17
知識を豊かにする、正確な理解力を身につけさせる	34	22	25
社会性、常識などを身につけさせる	30	20	29
その他	114	66	77
計	330	204	264

	A	B	C
A	/		**
B		/	
C			/
全体		*	*

第VIII図 子どもが好む本の傾向



第VIII図 子どもの人間形成のうえで本が影響する程度



向に何らかの影響を与えているように思われる。

14 子どもの人間形成のうえで本が影響する程度

親は、子どもの人間形成のうえで、本がどの程度影響すると考えているであろうか。それを本の種類ごとにみだものが第VIII図であるが、人間形成のうえで「知識を与えるもの」が最も高い影響を与えることが示されている。また、冒険的・刺激的なものは、男児よりも女児に好まれる傾向があり、その他では男児をもつ親と女児をもつ親とで

は、やや異なる傾向がみられ、女児をもつ親には「情緒豊かなもの」が、男児をもつ親には「活動的・冒険的なもの」に高い影響度の評定がみられ、第X-1表のとおりその差は有意であった。

さて、この間いと同一カテゴリで質問した上記8「選ぶ時に重きをおく本の種類」とは高い関連性があることが予想された。つまり、親が重きをおいたカテゴリは、子どもの人間形成に影響する程度がより高いと考えるであろう。

それをみたものが第X-2表である。男児をもつ親については、「教育的なもの」を除き、この関連性は有意であったが、女児をもつ親ではその関連性は「芸術性豊かなもの」及び「教育的なもの」のみであった。

これまでの結果とともにあらためてこの性差の面を考察すると、上記8の重きをおく本は、実際の子どもの

第Ⅺ表 重きをおく本と子どもが好む本の傾向との関連性

子どもが好む本	男 児				女 児			
	情緒豊か	知 識	活動・冒険	全 体	情緒豊か	知 識	活動・冒険	全 体
悲しいもの	0.6%	0.4%	0.2%	0.6%	1.7%	2.8%	1.6%	2.1%
不幸なもの	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.6	0.3	0.5
優しいもの	4.8	4.4	2.7	4.7	15.6	15.2	13.9	15.8
美しいもの	1.9	2.6	0.7	2.1	13.2	11.4	10.8	12.9
きれいなもの	1.2	2.0	0.5	1.4	9.7	12.8	10.9	11.2
夢があるもの	19.7	18.7	14.5	19.1	25.3	24.7	24.1	25.6
友情・たすけあいのもの	5.9	8.7	9.1	7.5	12.5	9.1	13.1	11.7
勇気のあるもの	11.6	10.9	13.6	11.4	3.5	3.2	4.6	3.5
正義のあるもの	13.3	14.0	16.4	13.7	3.9	3.5	4.9	3.9
闘い・闘争的なもの	10.3	9.4	14.1	10.2	0.3	0.9	1.6	0.5
冒険的なもの	20.1	17.0	23.0	19.2	6.2	6.2	8.9	6.6
知的興味をそそるもの	10.6	12.0	5.5	10.1	7.7	9.5	5.4	7.9

男 児

女 児

	情緒豊か	知 識	活動・冒険	全 体
情緒豊か			***	
知 識			***	
活動・冒険				***
全 体				

	情緒豊か	知 識	活動・冒険	全 体
情緒豊か			*	
知 識			**	
活動・冒険				**
全 体				

第Ⅺ-1表 情緒豊かなもの、活動的・冒険的なものの影響度  
情緒豊かなもの

ウエイト	+2	+1	0	-1	-2
男児をもつ親	92	199	130	22	2
女児をもつ親	121	206	82	6	2

性差.....\*\*

活動的・冒険的なもの

ウエイト	+2	+1	0	-1	-2
男児をもつ親	78	200	134	32	1
女児をもつ親	23	164	188	43	1

性差\*\*\*

第Ⅺ-2表 重きをおく本と人間形成に影響すると考える本との関連性

イ	知 識		情 緒		教 訓		活動・冒険		芸 術	
	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児	男児	女児
知識を与えるもの	**	—								
情緒豊かなもの			***	—						
教訓的なもの					—	**				
活動的・冒険的なもの							**	—		
芸術性豊かなもの									**	***

イ...第14問における全体の評定

ロ...第8問で同一の 카테고리を選んだ者の第14問の評定

第IX図 人格形成によい影響を与えるうえで重要と思われるものの順位

男 児		順位					音楽	
1位	自然	78.8%	本	12.9%	テレビ	6.8%	玩具	1.3%
2位	自然	9.2%	本	54.1%	テレビ	8.6%	玩具	15.8%
3位	自然	6.8%	本	24.9%	テレビ	9.0%	玩具	21.6%
4位	自然	2.9%	本	16.4%	テレビ	19.1%	玩具	42.9%
5位	自然	2.2%	本	1.5%	テレビ	56.7%	玩具	18.5%
女 児		順位					音楽	
1位	自然	73.3%	本	17.8%	テレビ	4.6%	玩具	2.3%
2位	自然	15.3%	本	46.7%	テレビ	7.3%	玩具	13.1%
3位	自然	9.8%	本	24.7%	テレビ	9.3%	玩具	18.8%
4位	自然	3.3%	本	6.5%	テレビ	17.7%	玩具	45.9%
5位	自然	1.9%	本	1.9%	テレビ	60.4%	玩具	19.6%

第XIII表 重みづけ得点

	玩具	テレビ	音楽	本	自然
男 児	1,086	866	1,100	1,683	2,102
女 児	1,007	763	1,142	1,612	2,043

かかわりの中で示された判断であり、したがって「あるべき」姿よりも、現実の姿すなわちわが子の読書傾向、好みが反映されていることが考えられる。それに対し、ここでの問いについては、客観的で、しかも親のもつ「あるべき」姿が意識化されていると考えられる。この点からみると、男児をもつ親の場合、現実の姿とあるべき姿とが比較的一致している例が多いのではないかと考えられる。

15 人間形成によい影響を与えるうえで重要と思われるもの

以上、本や読書傾向を中心にみてきたが、このように

してとりあげられた「本」や読書環境が、それでは、他の環境（玩具、テレビ、音楽、自然）と比較してどの程度重要なものなのであろうか。

それをみたものが第IX図である。よい影響を与えるものとして男女ともに第1位に自然、第2位に本、第3位に音楽、第4位に玩具そして第5位にテレビをあげているものが最も多く、順位による重みづけ得点（第XIII表）からみても、この順位に変わりはない。年齢的に比較する他のデータがないが、自然の重要性、そして地域によって異なるがテレビが低い位置にあることは示唆的であり、本もよい影響を与えるうえで相当に重要なものと考えられている。

これを地域別にみると、第IX図のとおり、男女ともに小都市農山村圏が他の地域よりも異った傾向を示している。すなわちこの地域においては、テレビが人間形成によい影響を与える重要なものと考えられる度合いは他の地域よりも高く、とくに男児をもつ親では、テレビは第4位

第X図 重要度の重みづけ得点分布の地域別

男児

A	玩具 15.7%	テレビ 11.6%	音楽 16.9%	本 24.6%	自然 31.2%
B	玩具 15.9%	テレビ 11.2%	音楽 17.3%	本 25.5%	自然 30.1%
C	玩具 16.0%	テレビ 14.7%	音楽 14.6%	本 24.1%	自然 30.7%

女児

A	玩具 15.3%	テレビ 10.2%	音楽 19.0%	本 24.8%	自然 30.7%
B	玩具 14.9%	テレビ 11.0%	音楽 17.3%	本 25.5%	自然 31.3%
C	玩具 15.9%	テレビ 13.6%	音楽 16.3%	本 24.7%	自然 29.4%

男児

	A	B	C
A	/	1.0	**
B		/	**
C			/

女児

	A	B	C
A	/	8.0	**
B		/	
C			/

となっており、音楽が第5位である。上記12「本を与えることによって学んでほしいこと、教えたこと」で示されたように、生活・文化的背景の相違が、本とともにテレビの重要度を高めていると考えられる。

16. 子どもの性と育て方

自分の子どもが男児か女児かによって本の与え方や重視する内容が異っている点がこれまでの結果にみられてきた。

それは親が子どもをどのように育てたいかということと無関係ではない。第XIV表は男児、女児にかかわらず、男の子らしく育てたいか、女の子らしく育てたいか、またとくにどちらとも考えていないかをみたものである。当然男児は男の子らしく、女児は女の子らしく育てたい

第XIV表 子どもを、どのように育てたいと思うか

	男児	女児
男の子らしく	414人	2人
女の子らしく	0人	332人
どちらでもない	48人	107人

と思う例が圧倒的多数を占めている。とくに男児に対しては男の子らしく育てたいという意識が強い。しかし女児についてみると、「どちらでもない」が男児に対してよりも倍以上の高い割合でみられ、しかも「男の子らしく」という育て方も2例みられ、この性差は有意(5%水準)であった。

第XI図 育て方と重きをおく本の種類との関連性

男児

男らしく育てたい	芸術性 2.6%	情緒性 33.2%	知識 33.6%	教訓的 7.4%	活動、冒険的 23.2%
どちらでもない	芸術性 5.0%	情緒性 41.3%	知識 33.8%	教訓的 5%	活動、冒険的 20.0%

女児

女らしく育てたい	芸術性 3.1%	情緒性 40.0%	知識 34.9%	教訓的 10.8%	活動、冒険的 11.3%
どちらでもない	芸術性 10.4%	情緒性 42.1%	知識 25.1%	教訓的 8.7%	活動、冒険的 13.7%

女児…… 2.5%水準有意

第Ⅷ図 育て方と本の人間形成に影響する程度との関連性

図7

○情緒性

男児

男らしく育てたい	非常に強く影響する 21.3%	かなり強く影響する 44.0%	どちらともいえない 29.8%	あまり影響しない 5.0%	全然影響しない 0.0%
どちらでもない	非常に強く影響する 15.6%	かなり強く影響する 51.1%	どちらともいえない 24.4%	あまり影響しない 4.4%	全然影響しない 4.5%

女児

女らしく育てたい	非常に強く影響する 28.5%	かなり強く影響する 49.7%	どちらともいえない 20.3%	あまり影響しない 1.3%	全然影響しない 0.3%
どちらでもない	非常に強く影響する 30.7%	かなり強く影響する 48.5%	どちらともいえない 17.8%	あまり影響しない 2.0%	全然影響しない 1.0%

○活動、冒険的

男児

男らしく育てたい	非常に強く影響する 18.5%	かなり強く影響する 46.6%	どちらともいえない 27.6%	あまり影響しない 7.0%	全然影響しない 0.3%
どちらでもない	非常に強く影響する 9.5%	かなり強く影響する 29.8%	どちらともいえない 51.1%	あまり影響しない 8.5%	全然影響しない 2.1%

女児

女らしく育てたい	非常に強く影響する 5.6%	かなり強く影響する 40.4%	どちらともいえない 42.7%	あまり影響しない 10.9%	全然影響しない 0.3%
どちらでもない	非常に強く影響する 5.1%	かなり強く影響する 34.3%	どちらともいえない 51.5%	あまり影響しない 8.0%	全然影響しない 1.0%

男児……2.5水準有意

このことは少くともいわゆる女の子らしさを強調しない育て方が女兒をもつ親にみられるということである。

これを本に関して性差のみられた上記8「選ぶ時に重きをおく本の種類」と関連させてみる。即ち男(女)の子らしく育てたいと思う親と、どちらでもなく育てたいと思う親とでは、重きをおく本に相違があるかどうかを確かめたものである。その結果は第Ⅷ図のとおり、男児をもつ親では、「どちらでもない」が「男の子らしく」よりも、情緒豊かなもの、芸術性に重点をおいて選ぶ傾向がみられたが有意なものではなかった。これに対し、女兒をきつ親では、「どちらでもない」が「女の子らしく」よりも、情緒豊かなもの、芸術性、活動・冒険的なものにより重点がおかれ、知識を与えるものが非常に少ない。この傾向は有意であった。

すなわち、これまでに示された男児の傾向とも女兒の傾向とも異なるものが示されているといえる。

さらに、本に関する親の意識とかかわる上記14「子どもの人間形成のうえで本が影響する程度」との関係を見たところ、第Ⅷ図のとおり、女兒をもつ親に高い影響度の評定がみられた「情緒豊かなもの」については、育て方とくに関連はみられなかったが、男児をもつ親に高

い影響度の評定がみられた「活動的、冒険的なもの」についてみると、男児について「男の子らしく」育てたいと考える親は、「どちらでもなく」育てようとする親よりも、「活動的、冒険的なもの」への影響度の評定は有意に(2.5水準)高く、13「子どもが好む本の傾向」のところでふれたように「男の子らしく」と「活動的、冒険的」とは現実にも、またあるべき姿としても親の意識の上で、非常に強く結びついており、「情緒豊かなもの」は女兒として育てようという意識とは必ずしも強く結びついていないことがさらに確かめられたように思われる。

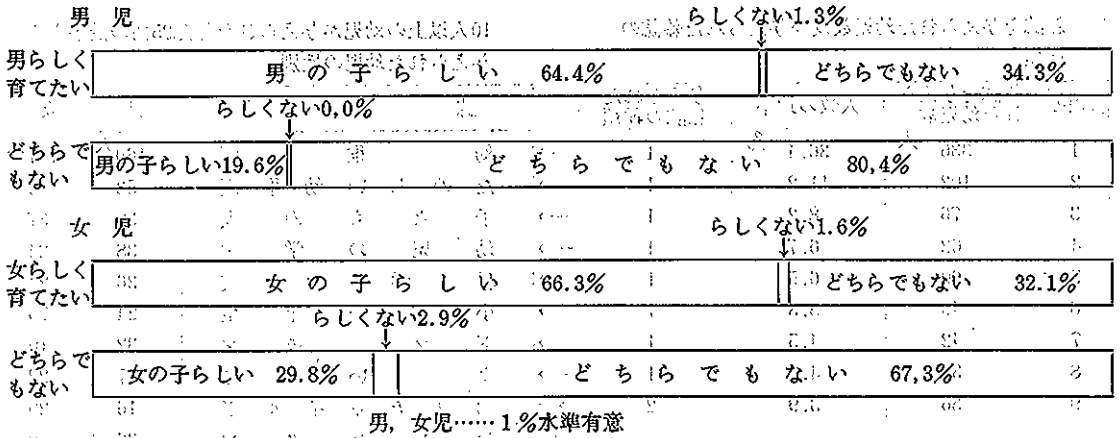
17 男の子らしさ、女の子らしさ

親の育て方に対し、現実にはわが子が男の子らしいか、第ⅩV表 男の子らしさ、女の子らしさ

	男児		女児	
男の子らしい	267人	60.1%	9人	2.1%
女の子らしい	5	1.1	251	58.2
どちらでもない	172	38.7	171	39.7
計	444	99.9	431	100.0



第XIII図 育て方と、男の子らしさ、女の子らしさとの関連性



第XIV図 男の子らしさ、女の子らしさの特徴

類 数

〔男の子らしさ〕	1 男らしさ	男の子らしい遊び、言葉、仕草、動作、男の子と遊ぶ	94 (31.0%)
	2 積極性	積極的、活発、物おじしない、元気、体を動かす、外に向く	94 (31.0)
	3 強いイメージ	根気強い、我慢強い、たくましい、勇ましい、統率力、乱暴	40 (13.2)
	4 自立性	自分の意見をはっきり言う、自己主張が強い、自立心が強い	11 (3.6)
	5 明朗性	からっとしている、物事にこだわらない、くよくよしない、明朗である	23 (7.6)
	6 やさしさ	弱いものにやさしい、面倒をみる、正義感がある	41 (13.5)
〔女の子らしさ〕	7 やさしさ	気がやさしい、思いやりがある	15 (11.5)
	8 世話好き	よく気がつく、家の手伝いをよくする	4 (3.0)
	9 非自立性	甘える、自分の意見をはっきり言えない、自立心が弱い	19 (14.6)
	10 弱いイメージ	涙もろい、泣きやすい、根気がない、我慢がない、ごわがる、体が弱い	30 (23.1)
	11 消極性	積極さがなく、気が弱い、引込思案、活発さがなく、おどかない	46 (35.4)
	12 女らしさ	女の子らしい遊び、言葉、仕草、動作、女の子と遊ぶ	16 (12.3)

男の子らしさの理由項目 303 及び女の子らしさの理由項目 130 を分類したものである。

女の子らしさをみたものが第XV表である。男の子が男の子らしく、女の子が女の子らしいとする回答はそれぞれ半数を超えたが、どちらでもないとする回答は男児、女児ともに40%に近い割合でみられる。このことは

まだ4、5歳時期には必ずしも、子ども自身が性差の特徴を示す傾向が十分に明らかではない場合が多い。あるいは親としての性意識が十分確かめられていない場合が多いなどのため、と考えるとよいであろうか。

第XVI-1表 3か月間に与えられた雑誌

雑誌を与えられた幼児数及び与えられた雑誌の種類

10人以上の幼児が与えられた雑誌25冊の誌名と与えられた幼児の性別

順位	雑誌を与えられた幼児数	人数の比率	与えられた雑誌の種類	誌名	男	女
1	336人	36.4%	1	幼稚園園	169人	167人
2	103	11.2	1	たのしい幼稚園	53	50
3	76	8.2	1	子どものお友	39	37
4	62	6.7	1	幼児の学習	38	24
5	60	6.5	1	科学の友	36	24
6	49	5.3	1	小学一年生	24	25
7	42	4.5	1	ドラエモン	32	10
8	39	4.2	1	よいこ	17	22
9	36	3.9	2	お話チャイルド	16	20
11	33	3.5	2	テレビクン	36	0
13	32	3.5	1	ひかりのくに	20	13
14	31	3.4	1	子どもと自然	19	14
15	22	3.4	1	キングダーブック	19	13
16	21	2.3	1	よいこのくま	13	18
17	20	2.2	1	よいこの学	11	11
18	18	2.0	1	ウルトラマ	21	0
19	14	1.5	1	仲間よし学	13	7
20	12	1.3	2	テレビマガジ	18	0
22	11	1.2	2	テレビランド	12	2
24	10	1.1	2	チャイルドブック	5	7
26	7	0.7	1	仮面ライダー	12	0
27	6	0.7	2	ワンダーブック	6	5
29	5	0.5	4	おともだち	0	11
33	4	0.4	5	サンチャイル	6	4
38	3	0.3	5	め	4	6
43	2	0.2	16			
59	1	0.1	95			

幼児数	与えられた雑誌種類数
923名	153冊

この点を上記16「子どもの性と育て方」との関連でさらに検討したものが第XIII図である。これを見ると、現在「どちらでもない」と判断される子どもは、親が「どちらでもない」育てたいと考えている場合に高い割合で見られ、その割合は「男の子らしい」「女の子らしい」と判断される子どもは、親が男の子らしく（女の子らしく）育てたいと考えている場合とほぼ符合し、60%以上

の割合（ただし、男児の場合は約80%ととくに高い）であることが明らかとなった。すなわち、この時期において、親の育て方や性意識は、子どもの性的特徴に比較的反映しており、その関係は有意（1%水準）であった。男の子らしさ、女の子らしさはどのような特徴をさしているのだろうか、その回答（自由記述）をまとめたものが第XIV図である。積極性と消極性、強いイメージ

第XVI-2表 3カ月間に与えられた単行本の種類

単行本を与えられた幼児数及び与えられた単行本の種類

10人以上の幼児が与えられた単行本32冊の書名と与えられた幼児の性別

順位	単行本を与えられた幼児数	人数の比率	与えられた単行本の種類
1	44	4.8%	1
2	42	4.6	1
3	28	3.0	1
4	27	2.9	1
5	23	2.5	1
6	21	2.2	1
7	18	2.0	2
9	17	1.8	1
10	16	1.7	4
14	15	1.6	1
15	14	1.5	4
19	13	1.4	2
21	12	1.3	2
23	11	1.2	3
26	10	1.1	7
33	9	1.0	6
39	8	0.9	16
55	7	0.8	9
64	6	0.7	21
85	5	0.5	31
116	4	0.4	35
151	3	0.3	55
206	2	0.2	117
323	1	0.1	785

書名	男	女
日本昔話	18	26
ドラモシ	25	17
イソップ童話	12	16
赤毛のアン	4	23
ウルトラマン	23	0
もぐらと自動車	8	13
アンデルセン童話	7	11
だいちゃんとうみり	9	9
こいうもりう	8	9
傘じぞう	6	10
夜の病院	7	9
郵便うさぎとおおかみがり	7	9
おばけのジョージ	2	14
みにくいあひるの子	5	10
図鑑昆虫	9	5
白雪姫	2	12
3匹のこぶた	9	5
ピノキオの冒険	6	8
学研ワイドカラー図鑑	9	4
赤ずきん	2	11
ぼくの三輪車	4	8
天までとどいたたけのこ	4	8
おだんごパン	2	9
ねずみのお医者さま	4	7
ピターパ	5	6
図鑑動物	6	4
しずくの冒険	6	4
シンデレラ姫	1	9
チビクロサンボン	2	8
いやいやえん	5	5
あいいうえお絵	7	3
あさき	2	8

幼児数	与えられた単行本の種類数
923名	1,107冊

ジと弱いイメージなどその性差が極めて対比的なものから、共通に指摘される特徴まで広がりがあり、また上記13「子どもが好む本の傾向」の男女差とも関連が深く興味深い。このうち「男らしさ」、「女らしさ」は他の「男の子らしさ」、「女の子らしさ」の項目のいずれにも関連するものであろう。共通に指摘されている特徴がある「やさしさ」は、両性的、または中性的な、ひいては性をこえた次元のものとも理解される。これは時代や社会にかかわらず意識化されているのか、それとも今日の社会・文化をより反映しているものと考えられるのであろうか。

18 よくよまれている図書及びよくみられている

TV番組

最後に、この調査の中で、3か月間に与えられた図書及びその時点でよくみているTV番組についての回答を付す。その結果3か月間に図書を与えられた幼児数、図書の種類及びとくによく読まれている図書名は第XVI-1表及び第XVII-2表のとおりであった。

また、最近みているTV番組の上位10位をあげると第XVII-1表、第XVII-2表のとおりであった。

今後、今回の調査の結果及び考察をもとに、よくよまれている図書及びよくみられているTV番組の内容を引き続き分析する予定である。

IV 要 約

1 この研究は間接学習の媒体として文化的環境とくに図書及びTV番組をとりあげ、これを通してみられる養育者の意識、態度及び幼児の学習効果、行動傾向について検討し、とくに幼児期における男の子らしさ、女の子らしさ等発達過程における性意識に焦点をあてた。

第XVII-1表 最近よくみているテレビ番組

男児 N=471

順位	番組名	数	%
1	ドラエモン	166	35.2
2	帰って来たウルトラマン	142	30.1
3	ザ・ウルトラマン	120	25.5
4	サザエさん	116	24.6
5	仮面ライダー	85	18.0
6	8時だよ全員集合	79	16.8
7	ひらけポンキッキ	79	16.8
8	ママとあそぼうピンポンパン	79	16.8
9	日本昔話	72	15.3
10	銀河鉄道999	49	10.4
11	ガッチャマン	49	10.4

2 全国の大都市圏、中都市圏、小都市農山村圏の3地域10幼稚園に通う1274名の4、5歳幼児の保護者に読書及びTVに関するアンケート調査を実施したが、回答のあった923名の内容に関する結果及び考察の主なものはつぎのとおりである。

3 とくに興味をもっている遊びの中で「本」が占める割合は男児、女児ともに3.2%（第7位）であり、「テレビ」は男児、女児ともに1%前後（20位以下）となっている。一方、人間形成に与える影響を与えるうえで重要と思われるものについて親の意識をみると、第1位自然、第2位本、第3位音楽、第4位玩具、第5位テレビの順となっており、本が相当重要なものと考えられている。しかし、地域的に異なる傾向がみられ、小都市農山村圏では、テレビを重要なものとする傾向が他の地域よりも高く、生活・文化的背景の相違がみられる。

4 読書を含む自由な遊び時間をみると、大都市圏では読書時間を含めてよく遊んでいること、中都市圏では読書の割合が男児に低く、女児に高いこと、小都市農山村圏では読書の割合が高いことが示された。また、この読書時間や、本に興味を持ち続ける期間はその子どもの持っている本の多さ（男児平均52.9冊、女児平均53.0冊）とは関係がうすいことが示唆された。さらに、子どもの要求によって本が与えられた場合には、他の場合よりも男女ともに読書時間が長いことが示された。

5 親が本を与えることによって何を子どもに教えたい、学んでほしいかをみると、男女ともに「情緒が豊かになること」が最も多く、次いで「知識が豊かになること」、「生活の拡大」、「道徳を身につけること」などが重視されている。

つぎに本を選ぶときに重きをおく内容としては、男児

女児 N=452

順位	番組名	数	%
1	赤毛のアン	138	30.5
2	サザエさん	136	30.1
3	花の子ルンルン	132	29.2
4	カレー屋けんちゃん	123	27.2
5	ドラエモン	110	24.3
6	ママとあそぼうピンポンパン	104	23.0
7	プリプリ物語	92	20.4
8	日本昔話	85	18.8
9	8時だよ全員集合	75	16.6
10	コメントさん	71	15.7

第Ⅷ-2表 地域別(註)順位  
男児

地域 順位	A		C	
	東 京	長 野 市	十和田市, 七戸市	宇 士 市
1	ドラエモン	カレー屋けんちゃん	トムとジェリー	ドラエモン
2	サザエさん	帰って来たウルトラマン	仮面ライダー	帰って来たウルトラマン
3	帰って来たウルトラマン	ザ・ウルトラマン	帰って来たウルトラマン	スパイダーマン
4	ザ・ウルトラマン	サザエさん	ザ・ウルトラマン	ひらけポンキッキ
5	ママとあそぼうピンポンパン	コマットさん	カレー屋けんちゃん	8時だよ全員集合
6	ひらけポンキッキ	ひらけポンキッキ	8時だよ全員集合	ママとあそぼうピンポンパン
7	仮面ライダー	日本昔話	プリンプリン物語	仮面ライダー
8	ボルテスV	銀河鉄道999	日本昔話	ザ・ウルトラマン
9	8時だよ全員集合	ママとあそぼうピンポンパン	ドラエモン	西遊記
10	銀河鉄道999	ドラエモン	宇宙船鑑ヤマト	カレー屋けんちゃん

女児

地域 順位	A		C	
	東 京	長 野 市	十和田市, 七戸市	宇 士 市
1	ドラエモン	カレー屋けんちゃん	トムとジェリー	花の子ルンルン
2	サザエさん	サザエさん	プリンプリン物語	赤毛のアン
3	花の子ルンルン	赤毛のアン	花の子ルンルン	カレー屋けんちゃん
4	赤毛のアン	ママとあそぼうピンポンパン	日本昔話	ママとあそぼうピンポンパン
5	ママとあそぼうピンポンパン	日本昔話	赤毛のアン	8時だよ全員集合
6	キャンディキャンディ	一休さん	カレー屋けんちゃん	ドラエモン
7	ひらけポンキッキ	プリンプリン物語	サザエさん	プリンプリン物語
8	一休さん	花の子ルンルン	お母さんといっしょ	サザエさん
9	8時だよ全員集合	それいけワンサクくん	8時だよ全員集合	日本昔話
10	プリンプリン物語	8時だよ全員集合	ドラエモン	西遊記

(註) 地域によりTV局数, 放映番組が異なるので, 順位は参考として載せた。

をもつ親では「活動的・冒険的なもの」が, 女児をもつ親では「情緒豊かなもの」, 「教訓的なもの」が, より重視されている。

さらに子どもの人間形成のうえで本のどのような内容がより多く影響するかについて親の意識をみたところ, 「知識を与えるもの」が最も高かったが, 一方男児をもつ親では, 「活動的・冒険的なもの」に, 女児をもつ親には「情緒豊かなもの」に高い影響度を認めるという同様の傾向が認められた。

6 一方, 実際に子どもが好む本の傾向をみると, 全体では「夢のあるもの」が最も多く好まれているが, 男児は「冒険的なもの」, 「正義のあるもの」, 「勇気のあるもの」, 「闘い・闘争的なもの」をより好む傾向があり, 女児は「優しいもの」, 「美しいもの」, 「きれいなもの」をより好む傾向がある。この傾向は一般に予想されている男の子らしさ, 女の子らしさとほぼ一致する。今回の

調査結果からは, 親の考える男の子らしさは, 積極性, 強いイメージ, 自立性, 明朗性であり, 女の子らしさは, 消極性, 弱いイメージ, 非自立性, 世話好きであった。やさしさは男女両性に認められるものであった。

7 以上のようにみられる性差は, 主に親の性意識や育児意識を反映しているものか, あるいは主に現実の子どもの意識や生物学的傾向を反映しているものか, また両者が相互に作用しあっているのかをみる為調査内容をクロス分析して検討した。それによると「活動性, 冒険性, 闘争性」では男児, 女児を問わず親が読ませたい, あるいは重きをおくといった読書環境が子どもの読書傾向に影響を与えていると考えられた。しかも自分の子どもが男児の場合男の子らしく育てたいと考える親は, この種の内容を非常に重視していることが認められた。一方, 「情緒の豊かさ」については, 女児をもつ親が重視している内容であるにもかかわらず女児の読書傾向に強

い影響を与えているとはいえず、また女の子らしく育てたいという意識とは必ずしも強く結びついていないことが示された。

8 今回の調査結果では、男児に対しては、男の子らしく育てたいという親の意識が強く、一方、それと比較すると女児に対しては、どちらでもなく(女の子らしくも男の子らしくもなく)育てたいという親が高い割合でみられ、女児を男の子らしく育てたいという例も少数ながら認められた。

現実にはわが子が男の子らしいか、女の子らしいかをみると、親がどちらでもなく育てたいと考えている場合に、現実にもわが子がどちらでもない(男の子らしくもなく、女の子らしくもない)と判断されている子どもの

割合は、親が男の子らしく、あるいは女の子らしく育てたいと考えている場合に、現実にもわが子が男の子らしい、あるいは女の子らしいと判断されている子どもの割合とはほぼ符合して60%以上(ただし、男児の場合は約80%と、とくに高い)もみられた。また、どちらでもなく育てたいと考えている親の子どもの好む本の傾向は、男の子らしく育てたいと考えている場合の傾向とも、また女児らしく育てたいと考えている場合の傾向とも異なるものが示された。

以上のことからすでに4、5歳の幼児期において、親の育て方や性意識は、子どもの性的特徴や本を読む傾向に比較的反映していることが示唆された。

項目	男児	女児	合計
1. 男の子らしく育てたい	75	45	60
2. 女の子らしく育てたい	15	35	25
3. どちらでもなく育てたい	10	20	15
4. その他	0	0	0
5. 不明	0	0	0
6. 合計	100	100	100

割合は、男の子らしく育てたいという意識が強く、一方、それと比較すると女児に対しては、どちらでもなく(女の子らしくも男の子らしくもなく)育てたいという親が高い割合でみられ、女児を男の子らしく育てたいという例も少数ながら認められた。

現実にはわが子が男の子らしいか、女の子らしいかをみると、親がどちらでもなく育てたいと考えている場合に、現実にもわが子がどちらでもない(男の子らしくもなく、女の子らしくもない)と判断されている子どもの

割合は、親が男の子らしく、あるいは女の子らしく育てたいと考えている場合に、現実にもわが子が男の子らしい、あるいは女の子らしいと判断されている子どもの割合とはほぼ符合して60%以上(ただし、男児の場合は約80%と、とくに高い)もみられた。

また、どちらでもなく育てたいと考えている親の子どもの好む本の傾向は、男の子らしく育てたいと考えている場合の傾向とも、また女児らしく育てたいと考えている場合の傾向とも異なるものが示された。

以上のことからすでに4、5歳の幼児期において、親の育て方や性意識は、子どもの性的特徴や本を読む傾向に比較的反映していることが示唆された。



